

1. 環境ボランティアの魅力&特徴



魅力

自然とふれあえる

- 自然とのつながりが体感できる
- 感覚が研ぎ澄まされる
- 自然と対話ができる
- フィールドに直接触れられる

世代を超えて

- 100年後を考えた行動
- 次世代の将来・未来につながる
- 持続可能な社会を創る

暮らしを見つめ直す

- “人間”を考え直す
- 人と自然との関わりや暮らし方を考える
- 人類共通の課題に対するアクションを起こす

結果が自分に返ってくる

- Give and Take
- 自然を守る、育む活動の達成感を得られる
- 誰もが地球の上で暮らしている実感が持てる

世界規模で地球に関わる

- 地球市民としてグローバルな問題に取り組める
- 世界規模のテーマに接して視野が広がる
- 自分の悩みが小さく思える!?

地元密着でコミュニティ再生

- 地域との一体感が感じられる
- 地域活性化の担い手に
- いろんな仲間ができる
- たくさんの笑顔に出会える

フラットな付き合い

- 自然の中ではみんな平等
- 年齢・性別・職業・出身地を超えて、いろいろな人と知りあえる

癒しと達成感

- ストレス解消
- 自然の中で心の洗濯
- 運動不足解消!
- ビールが美味しい!

誰でも参加できる

- 一人でも、友達とでも参加OK
- 自分に合ったテーマで活動できる
- 専門知識がなくても大丈夫

特徴

- 地球の環境問題という大きな課題に向き合う貴重な機会。会社や学校では手に入らない知識や、これからの時代を生きるために必要なスキルや思考を身に着けられます。
- 活動に参加することで、環境問題を他人ごとではなく、自分のこととして考えられるようになります。行動や意識が変わり、人生が充実。Think Globally, Act Locally!
- 天候など状況が変化する。当日にプログラムが変更になることもあります。
- 安全面、リスクマネジメント面での配慮が必要。

2. どんない環境課題”を扱っているの？ ～活動分野～



環境 NPO は大小合わせて、全国で約 15,000 もの団体があると言われています。

一言に環境団体と言っても、取り組み分野は様々です。

また、実際に現場を持って活動している団体もあれば、調査・研究、政策提言を主にするシンクタンクのような団体、情報発信や環境に関する普及啓発を行う団体など、活動スタイルも様々です。まずは自分の興味ある分野を見つけてみましょう。

生物多様性

～森林を守る～

世界では 20 世紀最後の 10 年間に 9,400 万 ha もの森林が失われ、国際会議の場で途上国の森林減少抑制を議論する機会も増えています。国内の森林も、手入れが行き届かず、荒廃しています。森林は野生鳥獣の生息の場であると同時に、渇水や洪水の緩和、水源かん養機能、二酸化炭素の吸収による地球温暖化の防止など、私たち人間が生きていくためにも重要な役割を果たしているため、森林保全はとても重要な課題です。

～水辺の環境を守る～

周囲を 4 つの海に囲まれた日本は豊かな海に恵まれ、山の多い地形と湿潤な気候はいくつもの河川を生み、私たちの生活を潤しています。ところが、陸に住む私たちは、暮らしや命そのものに欠かせないこの水の循環を、あまり意識することなく生活しています。もっと水辺に親しむ機会を増やしてみませんか。

～身近な自然を守る～

どこか遠くまで出かけないと本物の自然が味わえない、そんな風に思っていないですか？よく見渡すと、意外なことに、大都市の近くにも豊かな里山があり、都会の真ん中にさえ小さな自然がしっかりと息づいているものです。毎日の暮らしを彩る身近な自然だからこそ、自分たちの手でしっかり守っていききたいですね。

～野生生物を守る～

絶滅の恐れのある野生生物種の数、22,000 種以上にも上ります。主な原因は乱獲や生息地の破壊。世界でも有数の野生生物の消費国である日本は、国内でも昔ながらの農業の衰退や、開発に伴う生態系の変化により、野生動植物の生息地を脅かしています。野生生物と共に生きていける世界を残せるかどうかは、私たちの行動次第です。



温暖化防止

東日本大震災以降、化石燃料への依存が高まっていることから、更なる省エネでエネルギー消費全体を削減することや、化石燃料に依存しない自然エネルギーを推進していく事が急務です。自然エネルギーは供給が不安定といった面もありましたが、業務用・家庭用の大型バッテリーの開発も進み、こうした課題を払拭しつつあります。また化石燃料を使用しない薪ストーブの導入など、様々な形で化石燃料の使用を削減する知恵があります。

ゴミ・3R(清掃・クリーンアップ)

街中に落ちているゴミから有害廃棄物まで、国境を超えるクリーンアップの対象は多岐にわたります。私たちの経済活動と表裏一体のゴミ問題は、時に誤って飲み込んだ野生生物の命を危険にさらし、生態系への深刻な影響を与えることさえあるのです。ゴミ・リサイクル問題に取り組むことは、人間社会と自然環境の関係を見直すきっかけになるかもしれません。

環境教育・ESD

アメリカの生物学者、レイチェル・カーソンは著書『センス・オブ・ワンダー』の中でこう言います。「『知る』ことは、『感じる』ことの半分も重要ではない」と。とかく知識偏重になりがちな今、「センス・オブ・ワンダー」つまり、神秘的や不思議さに目を見張る感受性を身につけること、これこそが環境教育の目指すところかもしれません。また、近年は環境問題の解決とともに持続可能な社会の形成が求められ、持続可能な開発のための教育(ESD)の必要性が高まっています。ESD は社会の課題と自らの暮らしを結びつけ、新たな価値観や行動を生み出す学習や活動です。

自然災害復興

3.11 東日本大震災直後、多くのボランティアさんが被災地に足を運んできました。しかし、発生から時間が経つにつれ、徐々に人々の関心が薄れていると言われています。今後も引き続き、多様で木目細かな支援を行っていく必要があるのではないのでしょうか。その際、個人で被災地に足を運ぶよりも、被災地の状況を把握し、現地とのネットワークがある団体のボランティア活動に参加すれば、より効果的な支援に貢献することができます。

国際環境協力・海外ボランティア

地球温暖化、海洋環境の劣化、砂漠化など、地球規模で起こる環境問題に国境はありません。ほんの少しの勇気を出して、海外の活動にも挑戦してみませんか？ 海外ボランティアの醍醐味は活動を通じて世界が広がり、新しい価値観を発見すること。志を同じくする世界中からの仲間に出会えます。まずは、自分の好きな国や興味・関心のあるテーマで活動している団体を探してみましょう。

プロボノ

デザイナーなどの特殊技能を持つ人が、社会活動の支援する活動もありますが、プロジェクトの進行管理など、一般的な社会スキルも求められています。詳しくはこの後の特集ページをご覧ください。

環境問題全般、政策アドボカシー、情報発信

里山や農村など、現場を持つ団体ばかりが環境 NPO ではありません。気候変動や生物多様性といった地球環境問題の国際交渉をフォローするなど、国内外の環境政策に関する調査や研究を行ったり、環境関連のイベントやワークショップを企画・運営したり、あるいは様々な環境関連の情報やニュースを広く発信するなど、ボランティア自身が学びながら、知識を身に付けることができる活動も沢山あります。

3. 自分にはどんなボランティアが向いている？ ～ボランティアの種類～

I. NPO の活動に直接、関わってみよう。

自然の中での活動はもちろん、単発のイベントのお手伝いや、事務局スタッフとして、あるいはパソコンを使って在宅のままでもボランティア活動に参加することができます。ご自身の好みや都合に合わせて、いろいろな形でNPOの活動を支援してみませんか。



① **体を動かしたい**

地域の緑化活動、ゴミ拾い、国内外での植林、除伐・間伐作業、離島や山村での農業ボランティア、震災復興ボランティアなど。

② **子どもが好き**

子ども向けキャンプやイベントのサポート。

③ **事務局で働きたい**

ニュースレター発送、データ入力・整理、事務所の備品管理など。

④ **自宅から活動を支援したい**

テープ起こし、翻訳、web 作業など。

⑤ **単発で参加したい**

イベント、セミナーの手伝い(グッズ販売、受け付け、会場案内、写真撮影など)

⑥ **研究や調査を手伝いたい**

研究・調査の補助業務(データや資料の作成など)

II. 専門的な知識を生かしてみよう ～プロボノって何？～

プロボノとは職業的スキルや経験を活かして社会貢献するボランティア活動のことですが、近年、企業の社会貢献活動に対する関心の高まりとともに、ビジネススキルを社会に活かそうという社会人増えています。専門的なスキルというと、広報・Web デザイン、法務サポートなどが思い起こされますが、プロジェクト管理や営業など、社会人経験のある方でしたら、十分にプロボノとして活動することが可能です。

なお、(特活)a-con や(特活)サービスグラント(P.40 参照)など、プロボノのコーディネートを行う団体もありますので、プロボノは初めてという社会人の方は利用してみてもいいかもしれません。

III. 生活の中にボランティアを取り込んでみよう

体力に自信がない、子育て真っ最中で時間がない、いきなり活動に参加するのは不安があるなど、環境ボランティアの活動に興味はあるけど、なかなか行動に移せない…という人は、間接的にNPOを支援してみませんか。

日々の暮らしや趣味に絡めて、様々な方法で環境問題の解決へ向けた行動を起こすことができます。

例えば・・・① 寄付機能つきクレジットカードなどを使って買い物をする。

② 企業の会員カードのポイントを団体に寄付する。

③ NPO のオリジナルグッズ、書籍などを買う。

④ SNS などでも NPO のイベントなどをシェアする。

⑤ NPO 主催のイベントやスタディツアーに参加する。

⑥ 古切手、書き損じハガキ、を寄付する。

4. ボランティアに求められるものは何？ ～ボランティアの資質～

前頁まで、環境 NPO の取り組み分野やどんなボランティアがあるかを見てきましたが、では、環境ボランティアを受け入れる団体はどのような人を求めているのでしょうか。関東エリア(1都9県)で活動する環境ボランティア団体にアンケートをとった結果(回答数 43)を見ながらお答えしていきます。

質問1. どのようなボランティアさんに、**好感** が持てますか？

第1位 積極性、主体性がある 33件	“自主的、積極的に先を読んで行動できる” “向上心がある、社会を変えようと主体的に動ける”など。
第2位 コミュニケーション能力が高い 10件	“人とのコミュニケーションを積極的に行い、明るい雰囲気をつくってくれる”など。
第3位 協調性がある 8件	“協力的で、団体の立場や事情を理解している” “他のボランティアと協調・協力できる”など。
※その他、素直、真面目である、継続性がある、ユーモア、明るいなどの意見もあり。	

質問2. どのようなボランティアさんが、**困ります** か？

第1位 時間、約束にルーズ 28件	“時間を守らない” “約束を守らない”など。
第2位 やる気がない、消極的 19件	“グループ行動の流れで参加してくる” “指示を待っている”など。
第3位 協調性を欠く、自分勝手 17件	“自分勝手な行動をとる”“指図ばかりする” “独走してしまう”など。
※その他、理屈っぽく動かない、連絡がつかないなどの意見もあり。	

質問1. 好感の持てるボランティアさんの要素については圧倒的に“積極性”、“主体性”を挙げる声が多くありました。ボランティアは本来、自主的な活動であり、当然と言えば当然ですが、質問2(困ったボランティアさんの特徴)の回答を見るように、やる気がなく、消極的な人も少なくないようです。ただ、“積極性”や“主体性”が重要な要素だとする声が多い一方で、一生懸命になりすぎるあまり、周囲が見えなくなり自分勝手な行動に走ってしまう場合もあるようです。同じく質問2の回答の理由として、“協調性のなさ”や“自分勝手”を多く挙げられていることからそれがよく分かります。

また人によっては、ボランティア活動に興味はあるけれど、積極的に人前に出ることや人付き合いが苦手という方もいらっしゃるかもしれません。しかしながら、真面目さやマナーを守れるといった一般常識的な部分こそ大切な素養ですので、自信を持って、最初の一步を踏み出してみましょう。

本誌に掲載されている団体は、本誌掲載基準(P.14 参照)にコミットした安心して活動できる団体です。まずは、社会的ミッションや活動に共感できる団体を見つけて、自分のやってみたい気持ちを大切にしながら、活動を楽しむ余力の範囲内で継続的に活動することが大切です。

5. ボランティアをやってみようと思ったら・・・ 5つのルール

前頁の“ボランティアに求められているもの”を踏まえて、ボランティアに参加する際に知っておきたい約束事を以下、5つのルールにまとめてみました。

1) 自主的に活動しよう — 好きなことを大事に

活動に参加することを決めるのは自分自身。“無理せず楽しく！”をモットーに。できないこと、無理なことは、始める前にNPOの方に伝えましょう。

2) 相手を尊重しよう

一人ではできないことも、仲間と協力しあうことによって実現できるのがボランティアの良い点。

活動の中で出会う人たちに対して、相手の意見や考えを尊重できれば、自分の成長にもつながります。

3) 団体にコンタクトするとき気を付けたいこと

団体に資料請求や質問する際のコンタクトの方法ですが、通常、どの団体も忙しく、少ないマンパワーで運営している場合が多いため、できるだけホームページ上のお問い合わせフォームや e-mail で連絡するのがグッド。電話をする場合には、的確に素早く目的が伝わるように、聞きたいことは事前に整理しておきましょう。また、NPO・市民団体の事務所は個人宅の場合もありますので、深夜や早朝は避けるなど、常識的な対応をしたいものです。

4) 事務所を訪問する際のマナー

訪問は、事前に連絡をして団体側が了承した場合に限って行うなど、不用意な事務所訪問は避けましょう。訪問する場合は約束時間を厳守。なお、時期によっては時間が取れないケースもあります。また、一方的に話したいことだけを話しているようではいい関係は築けません。用件は簡潔に伝えて。



5) 約束は責任を持つ。

ボランティアさんを受け入れるには、NPO としても活動してもらうための準備をしています。約束したら、ボランティアといえども、責任がありますので、土壇場のキャンセルは厳禁。一般的なマナーは必ず守りましょう。

ボランティア保険を知っていますか？

ボランティア活動中に、事故が起きる場合もあります。本誌に掲載の団体は、ボランティアのリスク管理についても配慮がなされていますが、参加の際は自分でも確認するようにしましょう。また、ボランティア保険は個人でも加入することができます。



毎年4月更新で、1年間有効、掛け金も年間 300 円～1,400 円と、手頃なものです。加入は各地の社会福祉協議会の窓口等で可能ですので、ボランティア活動をする際には加入されることをお勧めします。

ただし、ボランティア保険は、森林作業などのリスクの高い活動については対象外となりますので、別途「グリーンボランティア保険」など、活動内容に適した保険に加入しましょう。



6. GEOC/EPOについて

あなたの？が！になる場所

ジオック エポ

GEOC / EPO 活用ガイド



地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)および環境パートナーシップオフィス(EPO)では、パートナーシップによる環境保全活動および環境教育を促進するため、施設を一般公開し、さまざまな展示やイベントを通じて、情報発信を行っています。

また、環境NPO・NGOの活動を支援するため、セミナースペースの無料貸出のほか、チラシ配布・WEBやメールマガジンによる広報活動支援サービスを実施しています。

■ライブラリー・情報スペース

環境NGO/NPO情報、イベント情報、企業のCSR報告書、パートナーシップ事例、環境教育事例など、国内最大級の情報量。開館時間内は自由にご覧いただけます。

■セミナースペース・フリースペース

約60名収容のセミナースペースです。環境に関連したイベントやミーティングに無料でお使いいただけます。セミナーが入っていない時間帯は、ミーティングや作業スペースとして自由にご利用いただけます。

- ・3か月前の1日からwebで予約できます。
- ・パソコン・プロジェクター等の会議備品や無線LANもあります。

■メールマガジン

継続的に環境情報を欲しい方は、メールマガジンをご登録ください。環境関連のイベントやセミナー、求人・ボランティア情報等も盛りだくさんです。

- ・毎月第3木曜日発行(+臨時号あり)
- ・購読→ <http://www.geoc.jp/information/mail/form>

■情報提供・相談

GEOC/EPOのスタッフが笑顔でみなさまをおまちしています。環境パートナーシップ、政策、CSR、NPOなどについてや、お探しの情報について、専門家がみなさまの相談にお応えします。電話やメールでもお気軽にお問合せ下さい。視察や見学、環境教育講座などのご相談もお気軽に。



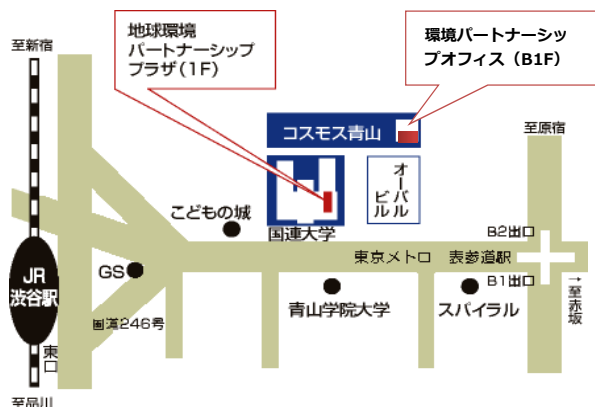
私たちがあなたの？に
応えます！

■地球環境パートナーシッププラザ (GEOC)

〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学ビル1F
TEL:03-3407-8107/FAX:03-3407-8164
開館時間:10:00~18:00(土曜日は17:00まで)
※セミナーの予約がある日は21:00迄開館可。
休館日:日曜、月曜、祝日、年末年始

■関東地方環境パートナーシップオフィス (関東EPO)

〒150-0001
東京都渋谷区神宮前5-53-67 コスモス青山B1F
TEL:03-3406-5180/FAX:03-3406-5064
開館時間:10:00~18:00
休館日:土曜、日曜、祝日、年末年始



- 営団地下鉄 銀座線/半蔵門線/千代田線 表参道駅B2出口より徒歩5分
- JR 渋谷駅東口より徒歩10分。